

明海大学 不動産学部

# 不動産の不思議

第131回

学生たちの視点と発見

## 【学生の目】

3月20日千葉県松戸市の踏切で、高齢の女性が電車にはねられた。女性は全身を強く打ち、病院で死亡が確認された。現場は遮断機や警報機がなく、電車に気付かず踏切内に入ってしまった事故が発生した。

## 超高齢社会の踏切

踏切は遮断機や警報機などの保安設備により、4区分される。①第1種踏切＝自動踏切遮断機を設置するか、踏切保安係が列車通過の際に遮断機を閉じる。②第2種踏切＝1日のうち一定の時間だけ、列車通過の際に踏切保安係が遮断機を操作す



井部 周斗  
不動産学部4年

る。③第3種踏切＝踏切遮断機はないが踏切警報機が設置されている。④第4種踏切＝踏切遮断機や踏切警報機がなく(第1種、第3種以外)、踏切警標や踏切注意柵が設けられている。

第1種は都心部や駅近辺では一般的だ。第2種は国内には現存しない。第3種、第4種は人通りが少ない地域で見られる。第4種踏切は、「き

# 安全性確保に知恵と技術を

よく使う第4種踏切である。警報機などがない分、すっきりとしたのどかな風景だが、電車が来ないか不安を抱きながら渡る。事故を防ぐためには第1種、少なくとも第3種にするのが重要であるが、コストがかかるため、今すぐに切り替えるのは厳しいという。

最近では離れた場所のものを把握し



安全への配慮がない第4種踏切

しゃにちゅうい」などの標識があるのみで、しっかり安全確認し、注意して警笛を聞かなければ電車の接近に気付けない。

踏切は一般に路面が凸凹で、かつ、隙間があって歩きにくい。聴力や体をひねって左右を確認する力が低下している高齢者が、安全確認ではなく、路面でつまづかないことに気を取られても不思議はない。写真は私の家の近所に設けられ、

操作する、センシングやモニタリング手段の多様化と進化が著しい。電車の到来を踏切に伝える、逆に、人の存在を電車に伝える多様な方法が考えられる。ホームに停車中の電車のドアを閉めるときには、進化した技術や設備を併用して安全を図ること比べて、第4種踏切の安全配慮のなさはバランスを欠いている。

伝統的な4区分にこだわることなく、路線や踏切ごとに民間や地元

え、使うとき開けるローテクでも徘徊高齢者の無意識な立ち入りを予防する効果は期待できる。

## 【教員のコメント】

レールの継ぎ目には線膨張係数を考慮した隙間があった。継ぎ目を通りすぎる車輪が発するカタンゴトンが電車の象徴だったが、隙間がないレールとなった今、電車は静かに走る。踏切の固定概念を捨て、進化する技術を安全のために生かしたい。